

まず上海で二週間隔離を受けた。そのあと武漢に行った。お母さんとお父さんは、僕を迎えに来てくれた。武漢の駅から出たとき、僕は涙を流した

聞き手 齋藤あおい

—今日はありがとう。上海で会って以来だね。この一年は留学生に  
とって、とくに大変だったよね。

うん。コロナ禍はやっぱりこの一年の始まりみたいなもので、ずっと自分の状況に影響し続けるような感じが、すごく強かった。

最初は、今年(二〇二〇年)の一月がはじまったばかりの頃、中国のメディアで武漢のコロナのニュースが出てきた。でもそのときはみんな、そんなに警戒感がなかった。人から人への伝染がまだ確認されていなかったから。でも一月の中旬、僕とAくん(パートナー)は旅行に行ってきたんだけど、日本のニュースを見て、日本でも中国人の感染が確認されたというのを見た。そういうことでちょっと、あやしいなと思いはじめた。

すべてのことは一瞬で爆発したみたいな感じで、僕たちが一月二二日に東京に帰ってきたその翌日は、中国の(旧暦の)一年の最後の日、「除夕」(大晦日)。一家団欒の日なんだけど、その前日、人から人への感染が確認された。すごくショックで。みんなが一瞬で、二〇二〇年のSARSみたいなことが起きているなって。

一月二二日に、人から人への感染が確認された。突然、すごく警戒感が上がってきた。次の日が除夕で、その日の朝いちばん、武漢が「封城」(ロックダウン)になったと、ニュースがあった。今も、当時の心境を思い出すと、自分のいちばん馴染みあるところだから、

想像できない状況になってきて、かつ、中国の一年においてもっとも重視される新年に、そんな状態になるんだなって思ったら……。

二三日は、まだ武漢だけの状態だとみんな思っていた。でもその三日後？ 僕の生まれたB市でも……一週間くらいで、湖北省のすべての都市がロックダウンされるようになった。小さな都市がロックダウンになるというニュースが、自分としては、一番やばいなと思ったときですね。若者は中高年の人に比べてわりとネットのニュースを頻繁にチェックして、一番新しい状況を知るので、いまだそれほど悪い状態なのかは、若者のほうがもつとわかっている状況だった。

でも僕のお父さんお母さん、そしてもつと上の世代の人は、ロックダウンされる前は警戒感がそんなになかった。中国の若者は、ずっと両親とか、上の人たちに言い聞かせていた。「集まるのもだめ」、「パーティーとかもやめてほしい」って。でも、中国の伝統的な雰囲気としては、新年なのに親戚が、家族が集まらないなんて……！日本人は想像できないと思うけど、(中国では)小さな町であるほどこういう考えが強い。

—集まらないといけない？

そうそう。でも僕の両親は、そんなに頑固じゃない人だから。「除夕」だけ少人数で集まったけど、その日以降はずっと家にいま

した。ひと安心した。あと、僕は武漢がロックダウンされてから、一、二カ月くらいの間、ぜんぜん勉強の状態に入れなくて。毎日、いちばん時間をかけた作業はスマホのチェック(笑)。ずっと、ニュースをチェックし続けた。そのときネット上で誹謗中傷みたいなのがあつて、心が痛かった。

なぜかというところ、武漢は中国で一番真ん中に位置するので、そこを經由して春節のときに人の流動が多くなる。もともと武漢は交通の要所であり続けてきたし、春節のときはもつと、人出が……。増える？

そう。あと、武漢は中国の内陸部で一、二番の大都市なので。春節のときにそこから帰省する学生や、出稼ぎ労働者とか、すごく膨大な数になる。でもそれはしょうがないし、みんなもしその人の立場になったら、春節のときは帰るだろうって。ロックダウンというニュースをみたら、もつと早く帰りたい、早く外に出たい。それは、別に正しくないことではない。でも、ネット上ではそういう人のことをいろんな人がのしっている。

なぜこういうネット上での炎上になったかというところ、ロックダウンされてもあの手この手を使って(武漢から)出てきた人のことを、SNSで書かれたから。それ見たら外の人は許せないと思う。でも、どっちの立場も理解できる。しょうがない状態ですよね。

あと、武漢の状況を最初に伝えた医師が、二月の六日に亡くなりました。そのニュースをみて、中国人としても、コロナの状態になつてから、一番……日本語で表せないな。これは、自分としては、その二カ月間ずっと苦しかったこと。病院現場の看護師が泣きながら、元旦から二週間経つても、子どもに会えなかつたとか、こういうビデオを見て、すごく心が痛かった。医療現場にいないといけな

いと、責任を感じている看護師がすごく多い。

日本にいる中国人として、日本人に伝えたいこととしては、コロナのニュースを受けてから、中国以外の世界がひどい状態になる前、世界中にいる中国人の留学生、華人、華僑たちは、SNSで、マスクを買って国内に送りましょうという活動を、世界中で行った。中国人のナショナルリズムみたいなものじゃなくて、ただ同胞としての愛。湖北省の医療現場はすごくマスク不足だったから、自分のお金でマスクを買って国内に送る。

でも、日本ではそれが、「中国人はマスク爆買いしたよね」って、悪い口調で。でも、その背景にある、なぜ留学生がマスクを集めたのかという状況はきつと理解されない。理解がないのに、留学生たちの行動を歪曲する。このニュースを見たら、ああ。なぜ、中国のいいことは伝えないんだろうって。苦しい状態にいて、留学生たちは小さな力でも貢献したいと思っていたのに。世界中で、みんな一緒にがんばっているのに、なぜそう言われるのか、わからない。もうひとつ伝えたいのは、武漢がロックダウンされてから、全国の病院からお医者さんと看護師が湖北省にきて、リスクを冒しても、当時の地元の病院のお医者さんたちと一緒に、湖北省のそういう状態をなんとか乗り越えていこうって(頑張っていた)。

でも、こういうことは日本では見えない。中国の動きは見えない。ただひたすら、悪いものを報道する。それは留学生たちはすごく傷つく。

海鮮市場で感染が始まったっていうけど、「野味」ってわかる？  
ふつうは食べない肉類のこと。

—ジビエみたいなものかな？  
そういう肉を食べているからそんなウイルスが出たって(いう言